

4 年 下小岩小学校 国語

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
4月	力を合わせてばらばらに 1時間（話・聞①） ○様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○必要なことを記録しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。（思・判・表A(1)エ） ■必要なことを聞いて情報を集める話し合いをする。	1	1 扉の詩・目次・P5「国語の学びを見わたそう」を読み、4年生の国語の学習でできるようになりたいことを書き留める。 2 教材文を読んで手順を確かめて、どんな話し合いをするのかを見通し、グループをつくり、テーマを決める。 3 自分が考えた特徴を一人ずつ話したり、友達の話を聞いて予想したりする。 4 紙に書いて同時に見せ合う。 5 どのようなことに気をつけながら聞き、特徴を伝え合ったのかを振り返る。	【知・技】様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。（A(1)エ） 【態】積極的に、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、学習の見通しをもって、情報
4月	春のうた 1時間（読①） ○詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。（知・技(1)ク） ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■想像しながら詩を音読する。 ☆自然のすばらしさに感動し、自然や動植物を大切にすることを育てる題材（道徳）	1	1 詩を音読し合うという学習の見通しを立てる。 ・教師の範読を聞き、「自分も音読してみたい」という思いをもつ。 2 言葉からどんな様子や気持ちかを想像し、音読のしかたを工夫して、音読する。 3 ペアで「春のうた」の音読を聞き合う。 4 学習を振り返る。 ・P17「この本、読もう」を参考に、他の詩の音読にもつなげる。	【知・技】詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（(1)ク） 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（C(1)エ） 【態】積極的に情景などを具体的に想像して読み、学習課題に沿って、想像しながら詩を音読しようとしている。
4月	なりきって書こう つづけてみよう 1時間（書①） ○修飾と被修飾との関係について理解することができる。（知・技(1)カ） ○書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)オ） ■好きなものなどになりきって想像したことを書く。	1	1 創作文を書くという学習の見通しを立てる。 ・P19の創作文例（「リク（犬・八さい）」）を読み、「書きたい」「読み合いたい」という思いをもつとともに、学習の進め方を確かめる。 2 なりきるものを選び、ペアで書きたい内容を伝え合うことを通して、書く内容や文章の構成をはっきりさせる。 3 想像したことを150～200字で書く。 4 書いたものをいろいろな相手とペアで読み合い、感想を伝え合う。 ・友達の感想から、自分の創作文のよいところを確かめる。 5 P20「つづけてみよう」を読み、言葉日記をつけることに年間を通して継続的に取り組む意欲をもち、「ノートの書き方」でノートの書き方の工夫例を確かめる。	【知・技】修飾と被修飾との関係について理解している。（(1)カ） 【思・判・表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。（B(1)オ） 【態】進んで感想や意見を伝え合い、学習の見通しをもって、なりきって想像したことを書こうとしている。
4月	ふしぎな出来事をとらえて読み、考えたことを話そう 白いぼうし 7時間（読⑦） ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。（知・技(1)ク） ■不思議なところについて考えたことを伝え合う。	1 2 3～5 6 7	1 学習の見通しをもつ。 ・P21を見て、題名やリード文から物語を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を 2 場面と登場人物を整理し、不思議なところを探しながら「白いぼうし」を音読する。 3 不思議だと思ったことが書かれている場面について、言葉に着目しながら、出来事を中心にして、登場人物の会話や行動などを整理する。 4 登場人物の性格を想像し、それぞれの人物にとっての「白いぼうし」はどのような物なのかについて考える。 5 不思議だと思ったことについての考えを書いてまとめる。 6 不思議だと思ったことについてまとめたことを伝え合う。 ・友達の考えを聞いて、感じたことを書き留め 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ） ・文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（(1)ク） 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。（C(1)イ） 【態】進んで登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉え、学習課題に沿って、不思議なところについて考えたことを伝え合おうとしている。
4月	図書館の達人になろう 1時間（知・技①） ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ■本の探し方を考えながら学校図書館で本を探す。 ☆学校図書館を活用した調べ学習（図書館活用）	1	1 他教科等の学習内容など、図書館を活用して調べたいことを確かめ、学習の見通しをもつ。 2 知りたいことに合った本を探す方法を確かめ 3 学校図書館の資料を活用して必要な情報を調べ 4 調べて分かったことや本を読んだ感想を、記録カードに書いてまとめる。	【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。（(3)オ） 【態】進んで読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づき、これまでの学習をいかして、本の探し方を考えながら学校図書館で本を探そうとしている。

4年 下小岩小学校 国語

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
4月	漢字辞典を使おう 2時間（知・技②） ◎漢字辞典の使い方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ）	1 2	1 漢字辞典を開いて書かれている内容を確認するとともに、部首や画数の順で並んでいることや、索引を用いて調べるなどの特徴を理解する。 2 音訓索引、部首索引、総画索引、それぞれを用いた辞典の引き方を理解する。 3 調べたい漢字について調べることを繰り返し、適切な調べ方を身につける。	【知・技】漢字辞典の使い方を理解し使っている。（(2)イ） 【態】進んで漢字辞典の使い方を理解し、学習課題に沿って、漢字辞典を使って調べようとしている。
4月	春の楽しみ 2時間（書②） ◎様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■春の行事の様子を伝える手紙を書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳）	1～2	1 挿絵やさまざまな資料を見て、春らしさを表現する言葉や春の行事を表す言葉をたくさん挙げる。 ・絵や写真を見て、自分の知っている言葉を書き出し、交流する。 ・教科書にはないが、自分の地域に伝わる行事を書き出し、交流する。 2 書きたい相手や伝えたい思いをはっきりさせて、手紙に書く内容を考える。 3 春の行事を表す言葉を用いて、伝えたい思いが伝わるように手紙に書く。友達と読み合い感想を伝え合う。 ・送る相手や伝える内容を明確にし、春の自然の様子や行事を表す語句を使って手紙を書く。	【知・技】様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） 【態】積極的に春の行事やその様子などを表す語句の量を増し、学習の見直しをもって、春の行事の様子を伝える手紙を書こうとしている。
5月	大事なことを落とさずに聞こう 聞き取りメモのくふう 【コラム】話し方や聞き方からつたわること 6時間（話・聞⑥） ◎必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。（思・判・表A(1)エ） ○相手を見て話したり聞いたりすることができる。（知・技(1)イ） ■聞きたいことを聞き、その内容を伝えるためにメモを取る。 ☆ICT端末を活用した録音・録画（ICT活用）	1 2 3 4～5 6	1 学習の見直しをもつ。 ・教師の体験談を聞き、先生たちが小学生の頃に夢中になっていたことを想像して、題材への関心を高める。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 メモを取る話題と目的を確認する。 3 メモの取り方について考える。 ・二次元コードを使って音声を読み、メモを取る。 ・P46のメモの例を見て、それぞれの工夫を見つけ、自分のメモと比べる。 4 学校の先生に話を聞き、メモを取る。 ・聞き取りメモを基に、話の内容をクラスの友達に伝える。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・P48「話し方や聞き方からつたわること」を読み、話し方や聞き方の違いで相手の受け止め方や伝わることに違いが生じることについて考える。	【知・技】 ・相手を見て話したり聞いたりしている。（(1)イ） ・必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。（(2)イ） 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。（A(1)エ） 【態】粘り強く必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話の中心を捉え、学習の見直しをもって、聞いたことを伝えるためにメモを取ろうとしている。
5月	カンジエはかせの都道府県の旅1 2時間（知・技②） ◎第4学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ■都道府県名を使った文を作る。 ☆地域に目を向けさせる題材（社会）	1～2	1 都道府県名を用いた例文の全体を読み、学習の内容を把握する。 2 都道府県名を使って文を作る。 3 同じ都道府県を選んだ相手や異なる都道府県を選んだ相手とさまざまなペアになり、書いた文 4 都道府県名に用いられる漢字を使った言葉を探し、発表する。	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、学習課題に沿って、都道府県名を使った文を作ろうとしている。
5月	漢字の広場① 2時間（書②） ◎第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	1～2	1 教科書の絵を見て、町や周りの様子を想像し、提示された言葉を使いながら、町のことを紹介する文を書く。 2 書いたものを読み返し、間違いを正すなどして文を整える。 3 書いたものを友達と読み合い、漢字を正しく用いることのよさを実感する。	【知・技】第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。（B(1)エ） 【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。
5月	筆者の考えをとらえて、自分の考えを発表しよう 思いやりのデザイン アップとルーズで伝える 【じょうほう】考えと例 8時間（知・技①、読⑦） ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)ア）	1 2 3～4	1 学習の見直しをもつ。 ・P53を見て、題名やリード文から説明文を想像する。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「思いやりのデザイン」を読み、筆者の考えを捉えて自分の考えをもつ。 ・筆者の考えとその示し方を確認、例を対比することでどんなことが分かるかを考える。 ・筆者の考えに対する自分の考えをまとめる。 3 「アップとルーズで伝える」を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習のめあてを確認する。	【知・技】 ・接続する語句の役割、段落の役割について理解している。（(1)カ） ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。（C(1)ア）

4年 下小岩小学校 国語

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	○接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。（知・技(1)カ） ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ■筆者の考えに対してもった自分の考えを伝え合う。 ☆情報の発信のしかたやその意図に目を向けて課題を解決する学習（総合的な学習の時間）	5 6 7 8	4 段落どうしの関係を考える。 ・段落と写真の対応関係を考える。 ・筆者の考えが書かれた文章を見つける。 ・筆者の考えがどのように伝えられているかをつかむ。 ・P65「考えと例」を参考にしながら、それぞれの段落どうしの関係を捉える。 5 「アップ」と「ルーズ」をどのように対比しながら説明しているかを捉える。 ・「アップ」と「ルーズ」を対比して説明することのよさについて考え、話し合う。 6 筆者の考えに対する自分の考えをもつ。 7 「アップとルーズで伝える」ということについて考えたことを発表する。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。 9 P65「考えと例」を読み、課題に取り組む。	・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。（C(1)オ） 【熊】粘り強く、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉え、学習の見通しをもって、自分の考えを伝え合おうとしている。
6月	気持ちが伝わる手紙を書こう お礼の気持ちを伝えよう 4時間（書④） ◎相手や目的を意識して、経験したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。（知・技(1)キ） ■お礼の手紙を書く。 ☆校外学習の見学先への礼状送付（社会、総合的な学習の時間）	1 2 3 4	1 学習の見通しをもつ。 ・お礼の手紙を書きたい相手を考えて、活動への意欲を高める。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 誰に何のお礼を伝えるのかを考える。 ・何に対してお礼を言いたいのかを明確にするため、詳しく書き出す。 3 改まった手紙の形式に沿って、内容を考える。 ・「初めの挨拶」「本文」「結びの挨拶」「後付け」といった、改まった手紙の形式を確かめる。 4 手紙を書いて、読み返す。 ・文末の表現や文字の間違い、言葉遣いに誤りがないかを確認する。 5 手紙を送る。 ・P69を参考にして、封筒に宛名と差出人の名前と住所を書く。 6 学習を振り返る。 ・手紙で気持ちを伝えることのよさを話し合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。（(1)キ） 【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） 【熊】進んで相手や目的を意識して伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって、お礼の手紙を書こうとしている。
6月	漢字の広場② 2時間（書②） ◎第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	1～2	1 教科書の絵を見て、それぞれの場面を想像し、提示された言葉を使いながら、夏の楽しみを説明する文を書く。 2 書いたものを読み返し、間違いを正すなどして文を整える。 ・主述の照応や句読点に気をつけて読み返す。 3 書いたものを友達と読み合い、漢字を正しく用いることのよさを実感する。	【知・技】第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。（B(1)エ） 【熊】進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。
6月	場面をくらべて読み、心にのこったことを伝え合おう 一つの花 7時間（読⑦） ◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ■心に残ったことを伝え合う。	1 2～3 4～5 6 7	1 学習の見通しをもつ。 ・P71を見て、題名やリード文から物語を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を 2 物語の設定を確かめ、内容を捉える。 ・どんな状況（時代、季節、場所等）の物語か、その中での登場人物の思いを会話や行動から 3 「一つだけ」という言葉に着目して読む。 ・P84「たいせつ」で、「くり返し出てくる物や言葉」に着目して読む方法を確かめる。 ・「一つだけ」という言葉が最後の場面に出てこない理由や、題名が表していることを考え 4 場面と場面を比べて読んで、心に残った登場人物の行動を、理由とともにノートに書く。 5 書いたことを伝え合い、互いの考え方や感じ方の違いを見つけ話し合う。	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（C(1)エ） 【熊】粘り強く、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、心に残ったところを伝え合おうとしている。

4年 下小岩小学校 国語

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
			6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	
6月	つなぎ言葉のはたらきを知ろう 2時間（知・技②） ◎接続する語句の役割について理解することができる。（知・技(1)カ）	1 2	1 つなぎ言葉の働きに気づく。 ・「問いをもとう」を基に、つなぎ言葉とその役割について考える。 2 P86の表を参考にして、P87の課題に取り組む。 3 つなぎ言葉を使って短い文を書き、友達と交流 4 学習を振り返る。 ・「いかそう」を確かめる。	【知・技】接続する語句の役割について理解している。（(1)カ） 【態】積極的に接続する語句の役割を理解し、これまでの学習をいかして、つなぎ言葉を使って文を書こうとしている。
6月	短歌・俳句に親しもう（一） 1時間（知・技①） ◎易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ■短歌や俳句を音読したり暗唱したりして親しむ。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳）	1	1 短歌・俳句を何度も声に出して読み、言葉の調子や響きを楽しむ。 ・おおよその意味が書かれた文を参考にして、言葉の響きやリズムを感じながら声に出して読み、風景や作者の心情を思い浮かべ、話し合う。 ・気に入った短歌や俳句を暗唱して楽しむ。	【知・技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア） 【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って、短歌や俳句を音読したり暗唱したりしようとしている。
6月	【じょうほう】要約するとき 2時間（読②） ◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。（思・判・表C(1)ウ） ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ■文章を要約する。 ☆多くの情報を集め、目的を意識して内容を要約、発信（総合的な学習の時間）	1 2	1 これまでに、話や本、文章の内容を相手にうまく伝えられなかった経験を思い出す。 2 P90を読んで、要約するときに気をつけることを確かめる。 3 説明する文章を要約するときに注意することについて考える。 ・P91の文章例を見て、要約した箇所がどのように用いられているかを確かめる。 4 物語のあらすじを伝えるときに注意することについて考える。 5 P54「思いやりのデザイン」を、内容を知らない人に説明するつもりで、100字程度で要約し、友達と読み合う。 ・必要な言葉や内容が抜けていないか、まとめ方を工夫しているところはあるかに気をつけて 6 学習を振り返る。 ・「いかそう」を確かめる。 ・P138「あせの役わり」の要約に取り組む。	【知・技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。（C(1)ウ） 【態】粘り強く目的を意識して中心となる語や文を見つけ、学習課題に沿って、文章を要約しようとしている。
6月 ～ 7月	見せ方を工夫して書こう 新聞を作ろう 【コラム】アンケート調査のしかた 10時間（書⑩） ◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ○比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方、引用のしかたや出典の示し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■新聞を作る。 ☆調べたことの整理、表現（社会、総合的な学習）	1 2 3 4～5 6 7～8 9 10	1 学習の見通しをもつ。 ・P93、96の新聞や、実際の新聞を見て、読む人のことを考えた新聞の工夫を見つける。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 どんな新聞を作るかについて話し合う。 ・教材文を読み、作り方の手順を確かめる。 3 取材には、どんな方法があるかを確かめる。 ・P98「アンケート調査のしかた」を確認する。 4 出来事や事柄を正しく伝えるために、どのような取材をするとうい、取材したい内容に合った方法を考え、取材をする。 5 取材メモを基に、割り付けを考える。 ・それぞれが集めた材料をグループで確かめ、記事の大きさや割り付ける場所を考える。 ・何を言葉で伝え、何を写真や図などで伝えるのかを考え、写真や図の大きさや場所を考え 6 取材メモを基に、それぞれが担当する記事を書く。 ・実際の新聞を参考に、記事の書き方を考える。 ・記事の種類や伝えたい内容に合わせて、記事の文章の組み立てを考える。 7 記事を推敲し、清書して仕上げる。 8 完成した新聞を読み合い、感想を伝え合う。 9 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方、引用のしかたや出典の示し方を理解し使っている。（(2)イ） 【思・判・表】 ・「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） ・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。（B(1)イ） 【態】進んで書く内容の中心を明確にして構成を考え、学習の見通しをもって、新聞を作ろうとしている。
7月	カンジーはかせの都道府県の旅2 2時間（知・技②） ◎第4学年までに配当されている漢字	1～2	1 都道府県名を用いた例文の全体を読み、学習の内容を把握する。 2 都道府県名を使って文を作る。	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。

4年 下小岩小学校 国語

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ■都道府県名を使った文を作る。 ▲地域に目を向ける題材(社会)		3 同じ都道府県を選んだ相手や異なる都道府県を選んだ相手とさまざまなペアになり、書いた文 4 都道府県名に用いられる漢字を使った言葉を探し、発表する。	(1)エ) 【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、学習課題に沿って、都道府県名を使った文を作ろうとしている。
7月	夏の楽しみ 2時間(書②) ◎様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■夏の行事などを俳句にする。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材(道徳)	1～2	1 挿絵や写真を見たり、短歌や俳句を音読したりして、夏の自然の様子や行事を表す言葉を考える。 ・絵や写真を見て、自分の知っている言葉を書き出し、交流する。 ・教科書にはないが、自分の地域に伝わる行事を表す言葉がないか、話し合う。 ・短歌や俳句を読み、夏の風景を表す言葉からその様子を豊かに想像する 2 夏の行事に関する言葉の一つ選んで、夏の行事の様子を表した俳句を作る。 3 繰り返し声に出して読み返したり、友達と読み合ったりして、感想を伝え合う。 ・季節を言葉で表現するよさを味わう。	【知・技】様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に夏の行事やその様子などを表す語句の量を増し、学習の見通しをもって、夏の行事の様子を俳句で表現しようとしている。
7月	本は友達 本のポップや帯を作ろう 神様の階段 5時間(読⑤) ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ) ■読んでほしい1冊をポップや帯で紹介する。 ☆読書生活の充実(図書館活用)	1 2 3 4 5	1 学習の見通しをもつ。 ・図書館や書店で、本のポップや帯を見た経験を語り合う。 ・学習の課題を設定し、学習計画を立てる。 2 本の読み方について話し合う。 3 P106を参考にして、読みたい本を選んで読む。 4 P108「神様の階段」を読み、紹介してみたいことを話し合う。 5 紹介したい事柄のはっきりするよう、本を読み返し、帯やポップにまとめる。 ・P107のポップや帯の例などを参考に、内容に盛り込む事柄を確かめる。 ・選んだ本を読み返し、心に残る場面や叙述、作品を読んで感じたことや考えたことなどを確かめる。 ・帯やポップの内容構成を具体的に考える 6 読んだ本のよさを紹介する。 7 学習を振り返る。 ・「読書に親しむために」で、本の読み方を押さえる。	【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ) 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ) 【態】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって、本をポップや帯で紹介しようとしている。
9月	忘れもの ぼくは川 2時間(読②) ○詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク) ○詩を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ■詩から受けた印象を伝え合う。	1～2	1 場面の様子や人物の気持ちを想像しながら、声に出して読む。 2 それぞれの詩の特徴的な表現に着目し、何が何にたとえられているかを考えて、様子を思い浮たえを使った表現によってどんな印象を受けたかを話し合う。	【知・技】詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【態】進んで二つの詩を読んで理解したことに基づいて感想をもち、学習課題に沿って、詩から受けた印象を伝え合おうとしている。
9月	あなたなら、どう言う 3時間(話・聞③) ◎考えとそれを支える理由との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ○目的を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ■グループで役割を決めて、それぞれの立場で話し合いをする。 ☆ICT端末の活用による録音、録画(ICT活用)	1～2 3	1 P120の状況を踏まえ、グループで役割を決めて、それぞれの立場でやり取りをする。 ・役割を交代してやり取りを積み重ねることで、それぞれの立場での思いを理解する。 ・なぜそのような言い方をしたのかを話し合う。 2 よりよい言い方を考え、自分とは違う立場になって考えることのよさについて考える。 3 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。(1)ア) ・考えとそれを支える理由との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、目的を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A(1)オ) 【態】積極的に、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめ、学習課題に沿って、異なる立場に立って話し合いをしようとしている。
9月	パンフレットを読もう 2時間(読②) ◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。(思・判・表C(1)ウ) ○読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ■パンフレットの工夫について話し合	1 2	1 身の回りでどんなパンフレットを見たことがあるかを紹介し合う。 ・それぞれのパンフレットに共通することを出し合い、パンフレットの特性を明らかにする。 2 P124-125のパンフレットやパンフレットの実物を読んで、気づいたことを話し合う。 3 知りたい情報を得るためには、パンフレットをどのように読めばいいか考える。 4 パンフレットの工夫について話し合う。 ・パンフレットには、作られた目的や伝えたい相手に応じて工夫がなされていることを知る。	【知・技】読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。(C(1)ウ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【態】積極的に目的を意識して中心となる語や文を見つけ、学習課題に

4年 下小岩小学校 国語

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	う。 ☆調べ学習における情報収集（社会、総合的な学習の時間）		5 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	沿って、パンフレットの工夫について話し合おうとしている。
9月	どう直したらいいかな 2時間（書②） ◎間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。（知・技(1)カ） ○丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。（知・技(1)キ） ■文章を推敲する。 ☆日常生活や学習面での記述とその見直し（各教科等）	1 2	1 文章を書いた後、これまでどのように見直していたかを想起する。 2 推敲の際に気をつけることを、文例を通して押さえる。 ・P126-127の卓球クラブの紹介文例を比べて読み、どこをどのように直したのか、なぜそのように直したのかを考えて話し合う。 ・推敲の際には、間違いを直したり、相手や目的に合うように書き換えたりすることを確認する。 3 P127の町の特徴を説明する文例を、1年生に読んでもらう文章に書き直す。 4 学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえ、この後の「書くこと」単元でも活用することを確認する。	【知・技】 ・主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。（(1)カ） ・丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。（(1)キ） 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。（B(1)エ） 【態】進んで文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、学習の見通しをもって、文章を推敲し直している。
9月	いろいろな意味をもつ言葉 2時間（知・技②） ◎様子や行動を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○国語辞典の使い方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ）	1 2	1 同音異義語があることを理解する。 ・「問いをもとう」を基に、同音異義語に出会った経験について想起する。 ・詩「とる」を参考にして、同音異義語のそれぞれの意味について考え、課題に取り組む。 2 国語辞典を使って、例示されている言葉の意味を調べ、意味の異なる用例を集めたり、言葉遊びの詩を作ったりして紹介し合う。 3 学習を振り返る。 ・「いかそう」を確認する。	【知・技】 ・様子や行動を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。（(1)オ） ・国語辞典の使い方を理解し使っている。（(2)イ） 【態】進んで様子や行動を表す語句の量を増し、学習の見通しをもって、言葉遊びの詩を作ろうとしている。
9月	ローマ字を使いこなそう 2時間（知・技②） ◎日常使われている簡単な単語について、ローマ字で書くことができる。（知・技(1)ウ） ☆パソコンのキーボード入力など、必要な場面におけるローマ字の活用（ICT活用） ☆ローマ字表記と英語の違いの確認（外国語活動）	1 2	1 ローマ字の使われ方を知る。 ・「問いをもとう」を基に、ローマ字で書かれている言葉にはどのようなものがあるのかを、日常生活を振り返って確認する。 2 ローマ字で表記する際、二つの書き方（訓令式、ヘボン式）があることを知る。 3 例示された言葉や身の回りの言葉を、訓令式とヘボン式でそれぞれ書く。 4 場面に応じた訓令式とヘボン式の使い分けについて考える。 5 日本語のローマ字表記と英語は、違うことを知る。 6 学習を振り返る。 ・「いかそう」を確認する。	【知・技】日常使われている簡単な単語について、ローマ字で書いている。（(1)ウ） 【態】積極的にローマ字の表記を考え、これまでの学習をいかして、ローマ字を書こうとしている。
9月	漢字の広場③ 2時間（書②） ◎第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○接続する語句の役割について理解することができる。（知・技(1)カ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	1～2	1 教科書の絵を見て、場面や出来事を想像し、提示された言葉を使いながら、「おむすびころりん」と「浦島太郎」の話を完成させる。 ・「そして」「しかし」などのつなぎ言葉を使って書く。 2 書いたものを読み返し、間違いを直すなどして推敲する。 3 書いたものを友達と読み合い、漢字を正しく用いることのよさを実感する。	【知・技】 ・第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） ・接続する語句の役割について理解している。（(1)カ） 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。（B(1)エ） 【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。